



いつも会う仲でなくても 心に残る、力になる言葉をくれる 瞬間があります

オーナーでもありデザイナーでもある永松さんの華やかなジュエリーが並ぶ「ジュエルグラマー」の店舗は、あの六本木ヒルズにあります。永松さんは福岡出身。大学を卒業後も福岡で就職。ジュエリーとは無縁の仕事に就きます。「20代後半に、一生自己表現のできる仕事がしたい」と思いました。デザイナーを目指し、三面図が描けるようにOLをしながら専門学校に通いました。そして33歳で起業。ボーナスや退職金の100万で初めに5つジュエリーを作って販売をしました。するとすぐに完売。その後、店舗を持たずサロン展開やランクショーなどをして

お客さんを増やしていききました。「38歳の時突然東京を思いつき、週末には住むところを決め、翌週には引越していました。母は結婚や子供を実は望んでいたのでし、破天荒な娘だと思ったでしょう」と振り返ります。そんな何事も即決し行動してきた永松さんは言います。「いつかはデザイナーとして世界観が表現できる空間が欲しかった。でも契約するには人生で一番の賭けに出る大きな決断が必要でした。母がかけてくれた言葉は、仕事に生きている自分を認めてくれたんだという言葉に聞こえ、このチャンスに賭けようという決心に繋がったんです」

私の流行語
大賞
2013

「幸せの価値は人それぞれ。自分が幸せだと思おうことを」とことんやりなさい

縁があつて六本木ヒルズの店舗に巡り合いますが、思い切った決断ができずに悩んでいたときに、母の言葉が吹っ切るきっかけに

ジュエリーを日常に溶け込ませ、装いの完成度をアップさせる「ファッションとの融合」をデザインの基本としています。



お母さんから上京の際いただいたバカラの時計と永松さんの退職後初めての作品の指輪とDM。「初心を忘れないようにしています」



お母さんと3年前に京都へ旅行。「毎年母の誕生日には、母の好きなデザインを考え、ジュエリーをプレゼントしています」。



福岡をはじめ国内外に出張することも多い日々。そんな旅のお供にいつも一緒のグローブトロッターのトランクは思い出がいっぱいそう。

この言葉をくれた人に 贈りたい言葉

自由に育ててくれてありがとう。細かいことを言わず、信用してくれて感謝しています。80歳を過ぎてても元気で両親が自立してくれているのも仕事に没頭でき、ありがたいです。いつまでも美しく健康でいてください。



ホノルルマラソンに向け、トレーニング中。イベントの写真はCW-Xにて。東京マラソンEXPO終了後、スポーツビューティを普及させたいと初めて実現した仕事。

この言葉をくれた人に 贈りたい言葉

まずはお礼をお伝えしたいです。きっと彼女は、「そんなこと話したっけ？」という感じでしょうが、私の心に響きました。私もこれから人に伝えるときは、自分の言葉として落とし込んで伝えられる人間になりたいです。

今年、JALホノルルマラソンツアーのパンフレットに橋本さんの名前があります。「橋本さんによるビューティ・クリニック」。一般社団法人日本スポーツビューティ協会を立ち上げたのは今年5月。「小さい頃から日焼けしないよう紫外線を避け、そして大学は体育を専攻。眉毛のコンプレックスからメイク学校で学び、それが全部仕事に繋がりました。スポーツと美容を融合させた分野を開拓したのです。「ランニングをして汗をかく時のメイクや、日差

しに負けないスキンケアなどを提案しています」。しかし今年協会を設立時には、設立さえすれば何とか仕事が終わって帰るだろうと任せ。そんな時にフランスで友人に言われた言葉を聞きハッと目が覚めたそう。「時間と命はイコールなんだと気付き、無駄な時間を見直しました。人や家族にも会う時間を作れば、数倍もエネルギーがチャージされ有効な時間に。準備や営業に力が入り、仕事が増えました。東京オリンピックに向けてさらにながらばっていききたいです」

橋本ワコさん(42歳・スポーツビューティアドバイザー)

私の流行語
大賞
2013

「時間を使つて何かをするという事は、自分の命を削り取つていってしまうもの」

自分で協会を立ち上げたものの、何をしていくべきか悩んでいた時、フランス人の芸術家の友人が伝えてくれた限りある時間の大切さ



「自分の困ったことが今は仕事に。山登り、自転車、ゴルフ、トライアスロンなどをする女性にぐれにくいメイクを提案したいです」